

平成26年度病虫害発生予察予報第5号（8月）

平成26年8月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
水稻（普通期稲）	いもち病（葉いもち、穂いもち） ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	やや多 平年並 平年並 やや少 平年並 少 平年並
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	並～やや多 やや多 やや少 やや少 平年並

I 気象予報（高松地方气象台 7月31日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞ 8月2日から9月1日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は多い確率50%です。日照時間は 平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。2週目は平年並の確率50%です。

＜確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	20	30	50
		日照時間	40	40	20

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1週目	四国地方	気温	30	50	20
2週目		降水量	30	40	30
3～4週目		日照時間	30	30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：8月2日（土）～9月1日（月）

1週目：8月2日（土）～8月8日（金）

2週目：8月9日（土）～8月15日（金）

3～4週目：8月16日（土）～8月29日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻（普通期稲）の病虫害

1) いもち病（葉いもち、穂いもち）

予 想 発生時期：並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では全般的には平年並の発生だが、県中西部ではやや多めの発生が見られており、進行型病斑も確認されている。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら収穫前使用日数と周辺への飛散に注意しながら速やかに薬剤散布を行う。特に上位葉への発病が多いときは、穂いもちが増加することから、出穂前を目安に薬剤散布を行う。

(2)窒素過多は発病を助長するので、穂肥の施用は稲の生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生時期：並／発生量：並

根 拠

(1)巡回調査では県東部でやや多めの発生となっているが、他の地域では目立った発生は見られていない。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、密度の大幅な上昇はないと考えられる

対 策

(1)周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生時期：並／発生量：並

根 拠

(1)巡回調査では県中央部で多発生となっているが、他の地域では目立った発生は見られていない。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、密度の大幅な上昇はないと考えられる

対 策

(1)周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

4) セジロウンカ

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

(1)巡回調査では全般的に少発生である。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、密度の大幅な上昇はないと考えられる

対 策

(1)周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

5) トビイロウンカ

予 想 発生時期：並／発生量：並

根 拠

(1)巡回調査では全般的に少発生である。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、密度の大幅な上昇はないと考えられるが、他県では大飛来も見られているので発生に十分注意する。

対 策

(1)本虫は株元に生息するので、防除の際、薬剤が株元に十分かかるようにする。また、防除にあたっては周辺作物への飛散防止に努める。

6) コブノメイガ

予 想 発生時期：遅い／発生量：少

根 拠

(1)巡回調査では県西部でわずかに発生が見られたのみであり、全般的に少発生であった。早期稲での発生も見られていない。

対 策

- (1)葉色の濃いイネが被害を受けやすいので窒素過多を避ける。
- (2)止葉を食害されると減収につながるので防除は出穂期までに行う。

7) 斑点米カメムシ類

予 想 発生時期：並／発生量：並

根 拠

- (1)早期稲のすくい取り調査ではミナミアオカメムシ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシなどを中心に発生が見られたが、発生量は平年並であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、密度の大幅な上昇はないと考えられる。

対 策

- (1)出穂期以降、ほ場にカメムシがわずかでも確認される場合、斑点米が発生することが予想されるので、出穂10日後及びその5～7日後に薬剤防除を行う。なお、薬剤防除の際には収穫前日数に注意して薬剤を選定し、周辺への飛散防止に努める。
- (2)ミナミアオカメムシは合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、本種が発生しているほ場では他系統の剤による防除を行う。

2 カンキツの病害虫

1) そうか病

予 想 発生時期：並／発生量：並～やや多

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかんでは平年並、中晩柑類では少発生あった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)窒素過多にならないように肥培管理を行うとともに、降雨後の薬剤防除を徹底する。

2) 黒点病

予 想 発生時期：並／発生量：やや多

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも平年並の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)枯れ枝、剪定枝を樹園地内に放置しない。
- (2)累積降水量、250mm～300mmを目処に薬剤防除を行う。

3) かいよう病

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも少発生であった。
 (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)ミカンハモグリガの食害や、風ずれによってできた傷口が多いと発生が多くなるので、ミカンハモグリガの防除を行う。

4) ミカンハダニ

予 想 発生時期：並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では、温州みかんでは平年並、中晩柑類では県中央部、中西部で多めの発生であったが、全般的には平年並の発生であった。
 (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多め、気温はやや高めと予想されていることから密度が減少すると考えられる。

対 策

- (1)薬剤抵抗性の発現を回避するため、同系統の薬剤の連用を避ける。

5) カメムシ類

予 想 発生時期：並／発生量：並

根 拠

- (1)巡回調査では、樹園地内での発生は見られていない。フェロモントラップへの誘殺も平年より少なめとなっている。
 (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めとなっているため、大幅な密度増加はないと考えられるが、第1世代成虫の発生時期となるため、密度は増加すると考えられる。

対 策

- (1)薬剤抵抗性の発現を回避するため、同系統の薬剤の連用を避ける。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病害虫関連情報 (どなたでも利用可能です)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報 (概要)

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります